

Ⅲ 研究開発の内容

1. 教育課程編成の重点～各学習分野 「公共性育成プラン」 (ことば)

目標	(1) 人との多様な関わりの中で思いや考えを伝え合い、友だちの考えを受け止めて、生かしながら自分の考えを創っていく力を養う (2) 思考力や想像力及び豊かな言語感覚を養う (3) 日本語の持つよさやおもしろさを体験し、ことばを大切にする心情を養う
----	---

		対話力につながる言語経験(例)	◇は単元例 『』は教材例
接続 期		◇どうぞよろしく…ジャンボ名刺で自己紹介 (ア) ・友だちの好きなものに興味をもち、知ろうとする ・ことばや相手を広げ、繰り返しを楽しむ ◇声を合わせて (ア・ウ) ・ことばのリズムを楽しむ・息を合わせて声に表す	□ファミリーでお話 (ア・ウ) ・友だちの話に耳を傾ける ・同じ場にいることができる
低 学 年		聞いて返す ◇のりものを調べて発表しよう (イ・ウ) ・乗り物の役割や特徴を知る・自分の好きな乗り物について調べ発表する・友だちの書いたものや発表を聞いて楽しむ ◇やり方を説明しよう (ア・ウ) ・体験を通して文章を読み、作り方をまとめる・友だちにわかるよう、説明の順序を考える・作ったもので友だちと一緒に楽しむ ◇おすすめを紹介しよう (ア・ウ) ・「ひとつひとつのなまえ」と「まとめてつけたなまえ」を理解して使いながら、お店屋さんのやりとりをする ◇様子や気持ちを想像しよう (イ・ウ) ・動作化や劇化を使って様子を想像する ・登場人物になりきって気持ちを想像する ◇質問してはっきりさせよう (イ・ウ) ・情報提示の順序を考える ・問題や質問を通して、わかる過程を経験する	『はたらくじどう車』 『手作りおもちゃ』
中 学 年		つないで考える ◇絵文字で伝え合おう (イ) ・絵文字の役割について知る・身近な絵文字を調べ、よさや工夫を知る ◇いろいろなオノマトペで楽しもう (ア・イ) ・オノマトペの楽しさを知り、自分で作って情景を表す・登場人物になりきってグループで音読を楽しむ ◇違いを話し合おう (ア・イ・ウ) ・分類方法の違いについて話し合う・様々な分類を調べ、発表しあう ◇相手に分かりやすい伝え方を話し合おう (イ・ウ) ・目的地までの伝え方を紹介しあう ◇自分の感じたことや考えを伝えよう (イ・ウ) ・新見南吉の作品を読み、ことばからイメージすることの違いを感じる ・事柄のつながりを考え、読み取ったことを自分のことばで表現する ◇いろいろな考えや立場を知ろう (ア・イ・ウ) ・新聞記事から「いつ・誰が・何を・なぜ・どうした」を読み取る・討論(聞き手との「さんかく討論(三角・参画)」)	『くらしと絵文字』 『きつつきの商売』 『分類ということ』 『道案内をしよう』 『新聞の活用』
高 学 年		考えてつくる ◇三角ディベートで説得しよう (ア・イ・ウ) ・インスタント食品の利用について立場を明らかにし討論を行い、自分の考えを持つ ◇パネルディスカッションで討論し考えを深めよう (ア・イ・ウ) ・さまざまな角度から考え、他の意見を吟味し、自分の考えを持つ ・テーマについて調べたり取材したりする ・グループ内で意見交換し、意見どうしの比較・価値づけを行う ◇文脈に沿って登場人物の思いを読みとろう (イ・ウ) ・「なぜ？」を話し合う・4人グループで対話する	『インスタント食品とわたしたちの生活』 『海の命』

<p>育てたい公共性リテラシー</p> <p>○対話力 ア：人の話を聞いて、応じ、返す力 イ：人の考えを理解し、自分の考えと比べ、判断する力 ウ：自分の思いや考えを相手に理解してもらえるように表現する力</p> <p>○語彙力 エ：日本語の響きを心地よく感じる感性 オ：日本語の意味あいや使い方の理解 カ：いろいろな言語体験を通してことばを身につけ使おうとする態度</p>	
--	--

語彙力につながる言語経験（例）	◇は単元例『』は教材例	子どもの姿	
◇身近なものをことばで表そう（オ） ・好きな物の絵と名前を書いたジャンボ名刺で自己紹介をする		・みんなの中の自分を感じる ・聞きあおうとする	接続期
◇ことばあそびを楽しもう（エ） ・発問や表記の違いに気がつく		・思いをからだやことばで表す ・息を合わせていっしょにやってみる	
ことばを楽しむ ◇数え歌遊びをしよう（エ・カ） ・数え歌を読み、リズムの変化のおもしろさを感じる ・オリジナル数え歌を作る		ことばで関わる ・最後まで聞き、知りたいことを尋ねる ・相手にわかるように伝える	低学年
◇きせつのことばであそぼう（エ・オ） ・ことばを集めて仲間をつくる ・ことばのリズムや変化を楽しむ ・気に入った表現をもつ		・共感をことばで表す ・様子や気持ちを想像する ・順序や簡単なわけを確かめようとする ・リズムを感じて楽しむ	
◇むかしばなしを読もう（エ・オ） ・昔話の音読を楽しみ、言語的な特徴を感じる ・知っている話と比べて読む			
ことばを広げる ◇帯単元『ことばを楽しむ』副読本の活用（エ・カ） ・詩の視写 ・ことばあそびを声に出して読む		自分のことばで語る・応答する ・話の中心を考えながら聞き、詳しく知りたいことを尋ねる	中学年
◇俳句で遊ぼう（エ・オ） ・見たこと、感じたことをことばにのせる ・交流し、句評を書く		・相手の立場や人物の気持ちを考える	
◇古典を味わおう（エ・オ） ・音読し、リズムや読み方などを知り楽しむ		・ことばの働きを知り、筋道や事柄のつながりを考える	
◇分かりやすく書いて伝えよう（カ） ・説明書を文のまとまりごとに書き、書いて分かりやすく伝える方法を考える ・書く順序や方法の工夫を考える		・疑問を素直に表し、友だちとの考え方や表現の違いに気づく ・違う理由や根拠を言う ・言い換えたり、書き換えたりし、自分の考えを表す	
ことばを深める ◇情景描写について考えよう（エ・オ） 『大造じいさんとガン』 ・情景描写から心情を想像したり、表現の効果について考える		ことばを受け止め、自分のことばで表す ・共通点や相違点を意識して聞く	高学年
◇表現の巧みさに目を向けて読もう（エ・オ・カ） 『宮澤賢治』 ・表現の巧みさに目を向けながら、複数の作品を読み比べ、お話の世界に没る ・擬態語・擬音語に表された情景を自分の言葉で表現しながら、作品を語る会を行う		・論の進め方や考えの根拠をはっきりさせる ・相手の立場や人物の気持ちを、状況を踏まえて考える	
◇社会で使われていることばを調べて考えよう（エ・オ・カ） 『みんなで作る町』 ・ユニバーサルデザインとは何か、身の回りを調べて情報交換する ・ことばが示すものの多様性を知り、人々の工夫について学ぶ		・相手の考えや立場を理解した上で、説得したり、自分の考えを述べたりする ・様々な角度から自分の考えをまとめ直す	

「公共性育成プラン」 (市民)

目標

(1) 我が国の国土、歴史、それらに生活する人々の営みの諸問題について、社会的価値判断や意思決定の活動を通して、社会的な見方・考え方、「社会を見る3つの目」を養う。

(2) 根拠をもって自分の考えを主張したり、友だちからの賞賛や反論を得たりして、自他に対して責任をもつ民主主義社会を創る市民としての資質を涵養する。

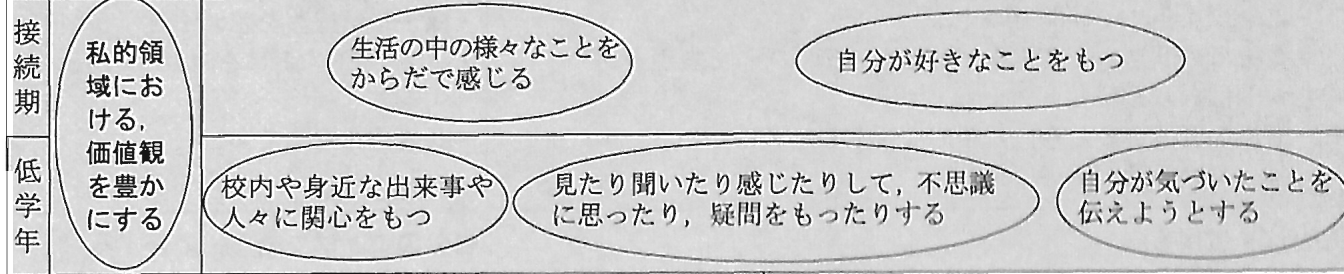
* 「社会を見る3つの目」

- ・ 社会には、一個人の工夫や努力で、できることと、できないことがあること
- ・ 自分の利益と、他者やみんなの利益は、必ずしも一致しないこと
- ・ だから、世の中には、広い視野から社会を調整するしくみが必要であるとともに、それらの仕組みに対して関心をもち、自ら働きかけようとする意識をもつことが必要であること

場面設定と内容のタイプ

【タイプA】
 時事的な社会的論争をともなう社会的事象の中で、「他者との差異や葛藤を感じる問題」を扱う内容
 【具体例】：「ごみ袋の有料化問題について考えよう」
 「米の生産調整をどうするか」
 「高速道路無料化をどう考えるか」
 「海外支援の内容の優先順位を決めよう」

これらの問題は、子どもを、実際に社会で起きている問題について向かいあわせ、日本の市民として、よりよい社会づくりについて、関心を深めることができる。また、社会的な問題の解決や、政策の選択においては、必ず不利益を被る人々の存在があることに気づかせることができる内容である。これは、右のBCとは異なり、明らかに、論争をともなう社会事象を内容とする学習分野だけにしか取り扱えないことである。



中学年

- ・ 社会で実際に起きている問題を知る。
- ・ それぞれの立場の長所と短所を考える。
- ・ 根拠を明らかにした自分の考えを主張する。
- ・ 自分と友だちの意見の相違点・共通点に気づく。
- ・ 友だちの考えに問いをもつ。
- ・ 自分の利益と、他者やみんなの利益は必ずしも一致しないことに気づき、葛藤する中で、解決策を考える。
 (・ 自分にできることはやってみようとする。)

(実践例)
 4年「ごみ袋の有料化問題について考えよう」
 すでに有料化が始まっているM市を取り上げ、23区はごみ袋有料化にするか、東京都全体を考え、どのような決定をするべきかを考える。

高学年

- ・ 社会で論争になっている問題を知る。
- ・ 社会の様々な立場の人に与える、長所と短所を考える。
- ・ 他者の視点に立って考えようとする。
- ・ 自分の主張の根拠となる情報を充実させる。
- ・ 他の資料と比較関連したり統合したりしながら、相手にわかりやすい情報に加工していく。
- ・ 相手の立場や主張、根拠とする内容を理解しようとし、自分の考えと比べる。
- ・ 友だちの考えに問いをもつ。
- ・ 本音で語り合うことで、当事者意識をもち、社会を見る3つの目について考える。
- ・ 自分の利益と、他者やみんなの利益を最小限にするためには、広い視野から社会を調整する仕組みがあるという見方をする。
 (・ 実際の社会に働きかけようとする。)

(実践例)
 5年「携帯電話の優先席付近での使用問題を考えよう」
 公共空間の中での携帯電話の使用状況について現状を知る。そして、本問題に対して、鉄道会社、携帯電話会社、国、個人の立場でどのようなリーダーシップを発揮できるかを考える。

育てたい「公共性リテラシー」

社会的価値判断力
意思決定力

の活動を通して、

- ア：社会的事象や、観察したことや資料を正確に読み取り、論点を取り出す。
- イ：読みとったことを、自分の主張の根拠にして、述べたり提案したりする。
- ウ：多面的（他者の視点）に考える。
- エ：なるべく多くの人々が幸せになれる解決方法を探して、折り合いをつけ、決定する。

【タイプB】
社会的事象を通して、子ども同士の関係の中の「他者との差異や葛藤を感じる問題」を扱う内容
【具体例】：「消防設備を一つ増やすことができるとしたら、何をどこに増やす？」
「東京都らしいところベスト3を選ぼう」
Aが時事問題で、実際に社会で生きている様々な立場の人々が利害関係にあることを学ぶのに対して、Bの内容では、学級内の子ども同士の関係だけにおいて対立が生じ得る内容なのである。それは、特別活動で学級の催しを決めるのに似ている面がある。

【タイプC】
子どもがプランや提案を創造しながら「他者との差異を認め広げる」内容
【具体例】：「沖縄に会社をつくろう」
「未来の自動車のプランをつくろう」
など、子どもたちが自分の創造性を発揮して、アイデアを考えて交流しあえる内容である。

自分が言いたいことが言える	自分がやってみたいことを決めることができる	他者の思いを感じる	
気づいたことから不思議や疑問に思ったこと調べようとする	他者の思いを聞こうとする	他者との差異を感じる →葛藤する	折り合いをつけようとする
<ul style="list-style-type: none"> ・問題場面の意味を知る。 ・自分の主張の根拠となる情報を集める。 ・根拠を明らかにした自分の考えを主張する。 ・自分と友だちの意見の相違点共通点に気づく。 ・友だちの考えに問いをもつ。 ・友だちの意見と自分の意見の間で葛藤し学級内で決定する ・少数意見は結果として否定されるが、その中でも筋のある主張があることを知る。 	<p>(実践例)</p> <p>4年「東京ベスト3」 この3カ所を紹介すれば、東京ってこんな所かとわかってもらえる場所を考える。3カ所を選ぶ観点として、どのような価値を見いだすことができるのか、討論しあい、考え、決定する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の主張の根拠となる情報を集める。 ・根拠を明らかにした自分の考えを発表する。 ・友だちの考えに対する問いをもつ。 ・自分と違う友だちの考えから学ぼうとする。 ・討論の楽しさをからだで感じる。 ・違いを楽しもうとする。 	<p>(実践例)</p> <p>3年「みんながよろこぶ公園をつくろう」 自分にとっては遊ぶための公園も、老若男女様々な人が使う公園。公園のはたらきをもう一度考え、アイデアを駆使して、みんながよろこぶ公園を提案する。</p>
<ul style="list-style-type: none"> ・問場面題の意味を知る。 ・自分の主張の根拠となる情報を充実させる。 ・他の資料と比較関連したり統合したりしながら、相手にわかりやすい情報に加工していく。 ・相手の立場や主張・根拠とすることを理解しようとし、自分の考えと比べる。 ・友だちの考えに問いをもつ。 ・多面的に考え判断し、決定する。 	<p>(実践例)</p> <p>5年「和食料理店の米の直営農場を作るならどこにする？」 米の直営農場を作るために①どこの都道府県を、②どんな種類の米を、③指導者は誰にするか。この3つの条件を考え選ぶ。いくつか候補が挙がる中で、それぞれ根拠をもって、自分の考えを表明し、相手を説得するように意見を述べ、決定する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の主張の根拠となる情報を集める。 ・既習事項や知識なども自分の提案の材料として、生かそうとする。 ・根拠を明らかにして自分の考えを主張する。 ・友だちの提案に対して、問いを持つ。 ・友だちの提案を賞賛したり、批判したりする。 ・友だちとの考えの差異を生かして、新たな視点で考える。 	<p>(実践例)</p> <p>5年「沖縄に会社を作ろう」 沖縄の地形や気候を生かして、沖縄の人々の生活を豊かにするためには、どのような会社がいいいのか、創造力を働かせながら考える。そして、それを提案するために、情報を集め、皆を説得するために提案する。</p>

「公共性育成プラン」 (算数)

<p>目標 (1) 体験や活動の中から数理的な課題を見つけ、それを算数・数学のことばを通して考え、解決することで知識・技能を身に付ける</p> <p>(2) 解決に対しての見通しをたて、自分なりの考えをもち、その根拠や意図を表現できるようにする</p> <p>(3) 友だちの思いや解決方法を想像し、自分の考え方と友だちの考え方を比較検討して数学的な見方・考え方を広げ、深める</p> <p>(4) 解決の過程や解決結果がどのような意味を持つのかを評価し、学習したことを自らの生活に進んで生かしたり、新たな課題を見つけようとしたりする</p>

※下線部は「公共性リテラシー」と関連が深いところ

	数・式と計算	量と測定	図形	関数	統計・確率
<p>接続期</p> <p>低学年</p>	<p>数を目的に応じて使い、<u>結果から考える</u></p> <p>数の構造を理解し、広げる</p> <p>数をいろいろな形で理解する</p> <p>数構成をいろいろな形で理解する</p> <p>十進数の理解の素地をつくる</p> <p>計算の仕組みを理解する</p>	<p>量を数値化して<u>目的に応じてつかう</u></p> <p>様々な量について理解する</p> <p>間接比較や任意単位を基準にすることを理解する</p> <p>普遍単位をもとにした数値化による比較を理解する</p>	<p>図形を共通の見方で見ることが<u>できる</u></p> <p>いろいろな形に触れ、形の特徴を実感する</p> <p>形の特徴を生かして具体的なものを構成する</p> <p>形の構成要素を意識する</p> <p>定規や三角定規を用いて色々な形を作図する</p>	<p>2量の関係を考え、<u>事象の関係を知る</u></p> <p>計算のきまりを理解する</p> <p>数の関係を比べ、きまりを見つける</p>	<p>目的に応じて、<u>事象のまとまりや変化を表現する</u></p> <p>簡単な表、グラフの表し方を理解する</p>
<p>中学年</p>	<p>数を目的に応じて使い、<u>その結果にもとづいて判断する</u></p> <p>数の構造を理解し、広げる</p> <p>数範囲を広げる</p> <p>記数法に基づいて計算方法を理解する</p> <p>式の意味を理解する</p> <p>問題場面を読みとり、適切な演算を決定する</p>	<p>量を数値化することによって、<u>事象の意味を明確にする</u></p> <p>測定の原理をさまざまな量において理解する</p> <p>測定器具を作り、測定に利用する</p> <p>さまざまな量の測定を通して量感を育てる</p>	<p>図形を構成要素で<u>見る</u>ことを通して、<u>他者と共通の基盤で分類ができるようにする</u></p> <p>平面図形を構成要素で見る</p> <p>定規や三角定規、コンパスを用いて色々な形を作図する</p> <p>操作活動を通して立体図形の見方を培う</p>	<p>2量の因果関係を把握することにより、<u>事象の関係を明確にする</u></p> <p>現象から2量を取り出して、その関係を調べる</p> <p>式を操作して関係を考える</p>	<p>目的に応じて、<u>事象の様相を表現する</u></p> <p>2次元の意味を理解する</p> <p>目的に応じてグラフを選び、項目・目盛りを考え、表現する</p> <p>目的を持ってデータを収集し、それをもとに判断した事柄を友だちに<u>分かりやすく伝える</u></p>
<p>高学年</p>	<p>数を目的に応じて使い、<u>その結果にもとづいて判断する</u></p> <p>数の構造を分析的に理解し、その特性を利用する</p> <p>整数以外の数を知り、その仕組みを整数の見方、考え方を使って理解する</p> <p>数を合成、分解し、決まりを見つけることで数を多様に見る</p> <p>整数場面での演算の意味を小数・分数へ広げて理解する</p>	<p><u>目的に応じて測定する方法を考え、事象の意味を明確にする</u></p> <p>既習の面積の求め方を利用して、他の形の面積の求め方を理解する</p> <p>2次元の広さの見方を3次元にも広げる</p> <p>2量の関係を表す数の意味を理解し、使うことができる</p>	<p>図形における条件と性質の関係を理解し、<u>論理的に説明する</u></p> <p>成立条件に着目し、その図形の性質を見つけ、利用する</p> <p>対称の見方を知り、既習の図形の見方や生活に役立てる</p> <p>平面図形の見方を使い、構成要素から立体を理解し分類する</p> <p>平面の見方を立体に利用する</p>	<p>2量の関係を明らかにし、<u>それを一般化する</u></p> <p>2量の関係を表や図、グラフに表し、きまりを見つけ、式に表し、一般化する</p>	<p>目的に応じて、<u>事象の様相を表現する</u></p> <p><u>情報を適切に処理し、読み取る</u></p> <p>量の関係を表す方法を考える</p> <p>適切なグラフに表し、またグラフから量の関係をよみとる</p> <p><u>与えられたデータを多方向から分析し、読み取る。</u></p> <p><u>目的を持って情報を収集・処理し、それをもとに判断した事柄を友だちに分かりやすく伝える</u></p>

育てたい「公共性リテラシー」

ア：既習事項や日常生活，友だちの疑問等から自分なりの課題を持ち解決に取り組む姿勢

イ：自分の考えを図や式・ことばを使って友だちに分かりやすく伝える力

ウ：友だちの考えを図や式・ことばから理解し，自分の考えと似ている点や違っている点を明確にする力

エ：様々な解決の中から，話し合いを通して，課題場面に適した方法を判断する力

オ：学習したことを整理し合い，疑問やさらに知りたいことを出し合いながら 新たな課題を見つける力

子 ども の 姿

接 続 期	<ul style="list-style-type: none"> ・友だちがしている活動のまねをして，数さがしや形さがしをする ・自分の見つけてきた数や形をみんなに伝える ・友だちが見つけてきた数や形を知る
低 学 年	<p>ア・身の回りの事象から数量を取り出し，関心をもって課題とする</p> <ul style="list-style-type: none"> ・友だちの疑問に関心をもつ ・既習事項をもとに類推的思考や帰納的思考を用いて解決しようとする <p>イ・自分なりに解決し，その方法を図や言葉で書いたり，話したりする</p> <ul style="list-style-type: none"> ・四則演算の式，図，絵を表現方法や思考の手立てとして使う <p>ウ・式や図を読み取り，それをもとにして考える</p> <ul style="list-style-type: none"> ・友だちの考えを理解し，自分の考えと比べて違っている点や似ている点を明確にする <p>エ・解決方法や結果について，問題の場面と関連付けて考える</p> <p>オ・解決を見直し，さらに解決が必要な場合や新たな課題が見いだせないか考える</p>
中 学 年	<p>ア・身の回りの事象から数量を取り出し，目的に応じて課題とする</p> <ul style="list-style-type: none"> ・友だちの疑問に関心をもつ ・既習事項をもとに類推的思考や帰納的思考を用いて，論理的に解決を行う <p>イ・自分なりに解決し，その方法を読んで分かるように書く</p> <ul style="list-style-type: none"> ・四則演算の式，グラフ，線分図，数直線を表現方法や思考の手立てとして使う <p>ウ・式やグラフを読み取り，判断する</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分の考えと友だちの考えを比較し，似ている点や違っている点を明確にする <p>エ・解決方法や結果について，条件と関連付けて判断する</p> <p>オ・解決を見直し，さらに解決が必要な場合や新たな課題が見いだせないか考える</p>
高 学 年	<p>ア・社会事象や活動のなかから数量を取り出し，目的に応じて課題とする</p> <ul style="list-style-type: none"> ・友だちの疑問や未解決の問題に関心をもつ ・既習事項をもとに類推的思考や帰納的思考を用いて考え，論理的方法で解決を行う <p>イ・自分なりに解決し，その方法を他者が読んで分かるように書く</p> <ul style="list-style-type: none"> ・式，グラフ，線分図，数直線を表現方法や思考の手立てとして使う <p>ウ・式やグラフを読み取り，判断する</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分の考えと友だちの考えを比較し，似ている点や違っている点を明確にし，より良い方法を検討する <p>エ・解決方法や結果について，条件や一般的価値と関連付けて判断する</p> <p>オ・解決を見直し，さらに解決が必要な場合や新たな課題が見いだせないか考える</p> <ul style="list-style-type: none"> ・解決された事柄を統合し，一般化する

「公共性育成プラン」 (自然)

- 目標 (1) 主体的に考え, 科学的根拠を持って判断行動ができる
 (2) 疑問に思ったことを繰り返し探究し, 自然の法則を見つけようとする
 (3) 実験観察からつかんだ事実を元に学び合い, 高めあう

	エネルギー ～法則性～	物質(粒子) ～瞬間の変化～	生命 ～命の連続性～	地球 ～ダイナミック・グローバル～
接続期	スイッチやプラグ	シャボン玉あそび ・見る・触る・感じる	アサガオの栽培 ・成長の変化を感じる ・世話をする 「幼稚園と違うね」	砂あそび ・一緒にあそぶ, あそびながら気付く
低学年	静電気 ・不思議に思い, 試してみる 「見て, 見て」 電気の世界への入門 ・試行錯誤 ・発見を見せ合う	泥水・色水 ・見る・まねる・伝える いろいろなものを溶かそう ・友だちの発見と比べる ・友だちの表現のよさに気づき, 取り入れる	畑の虫・花壇の虫 落ち葉拾い・木の葉拾い ・発見を共有する 「見せて, 見せて」 春見つけ・秋見つけ ・発見したことを絵や文で伝える	石集め・砂集め ・仲間分けをする 冷たい地面・温かい地面 ・観察して気付く・比べる
中学年	風やゴムの働き 光の性質 磁石の性質 電気の通り道 「作ってみよう」 「できた」 電気の働き ・実験結果(事実)から推論したことを話し合う ・協力して実験に取り組む ・結果から推論したことを話し合う	物と重さ ・身体感覚から普遍単位へ切り換える 空気と水の性質 ・発見を見せ合う ・疑問を伝え合う 「なぜ, どうして」 金属, 水, 空気と温度 ・結果を表やグラフで表す(データの一般化)	昆虫と植物 ・継続観察(協力) ・他者にわかりやすく伝えるために図や絵で表現する。 身近な自然の観察 季節と生物 ・発見を見せ合う・疑問を伝え合う 人の体のつくりと運動 ・協力して実験・観察を行う	太陽と地面の様子(日なたと日影)(太陽の動き) ・友だちの考えを聞き, 自分の考えと比べる 天気の様子 月と星 ・結果から推論したことを話し合う
高学年	振り子の運動 電流の働き(電磁石)でこの規則性 ・実験データを共有する ・実験結果から規則性を導き出す 「あ, そうか. わかった」 電気の利用 ・発電・蓄電 ・電気の変換 エネルギーを考える ・科学の進歩が生活に生かされていることを知る	物の溶け方 ・実験・観察方法を話し合う ・見えないものの存在を想像し, 考え, 伝え合う。 ・瞬間の変化を確かめ合う ・相手にわかるように説明 燃焼のしくみ 水溶液の性質 ・小グループで話し合いながら, 解決方法を考え, 実験観察を行う ・結果から得た情報を元に話し合い, 考察する。	動物の誕生(メダカ・ヒト) ・継続観察(役割分担) 植物の発芽, 成長, 結実 ・分析的に調べる(条件制御) ・結果から推論したことを話し合う 人の体のつくりと働き(消化吸収循環, 排出) ・調べたことをわかりやすく工夫して表現する。 植物の養分と水の通り道 生物と環境 ・友だちと一緒に疑問に答えたり, 理由を考えたりする。 ・科学と自分たちの生活を話し合う	流水の働き ・実験結果を共有し規則性を導き出す 天気の変化 ・観測データ(事実)をもとに話し合う 土地のつくりと変化 ・情報を収集し分析する 月と太陽 天体の位置関係 ・観測データを共有し, 仮説をたて検証する

育てたい「公共性」リテラシー

- ア：自分や友だちの疑問から明確な学習問題を持ち、それを実験観察から明らかにしようとする態度
- イ：問題が解決するまで友だちと協力してくりかえし追求しようとする態度
- ウ：様々な考え方をまずは受け止め、相違点や類似点に気付く能力
- エ：人間関係や既習知識ではなく、事実を重視した論議ができる力

		情報を伝え合う姿	公共性リテラシーの育ちが期待される子どもの姿
接続期		<ul style="list-style-type: none"> ・見て見て！ ・聞いて聞いて！ ・見せて見せて！ ・ちょうだいちょうだい！ 	<ul style="list-style-type: none"> ・目の前のものを見る，触る，聞く，感じ，それがもとでつながる (ア) ・一緒に木の実や落ち葉や虫を集める (イ)
低学年	話 聞 す	<ul style="list-style-type: none"> ・見て見て！聞いて聞いて！ →スピーチで発表する ・見せて見せて！ちょうだいちょうだい！ →みんなで見つけに行く ・見て，触って，聞いて，そこから自分の考えをもつ 	<ul style="list-style-type: none"> ・自分や友だちから聞いたり見たりしたことを，自分も見たり試したり，見せ合おうとする (ア) ・満足するまで，友だちと一緒にくりかえし見たり試したり，身体感覚で感じようとする (イ) ・自分が体験したこと・発見したことを，きちんとことば・文・絵などで伝えようとする (エ)
中学年		<ul style="list-style-type: none"> ・実験・観察結果から自分の考えをもつ ・学習問題に合わせて，自分の考えを発表する ・友達の意見も聞き，受け止めようとする ・友達の意見と自分の考えをすり合わせる 	<ul style="list-style-type: none"> ・発見を見せ合う，疑問を伝えあう中で，学習問題を見つけ，それを解決するために実験や観察をしようとする (ア・イ) ・問題が解決するまで友だちと協力してくりかえし実験や観察をする (イ) ・実験，観察結果を共有し，友達の考えも聞き，自分の考えと比べようとする (ウ) ・実験・観察結果から，それぞれの考えを出し合い，話し合う (ウ・エ) ・友達関係よりも，実験・観察の結果のほうが大切だと気づく (エ)
高学年		<ul style="list-style-type: none"> ・実験・観察結果から自分の考え(特に規則性)を持つ ・明確な学習問題を持ち，その解決に結びつくような自分の考えを発表する ・友達の意見も聞き，受け止め問題解決に生かそうとする ・友達の意見を分析・批判する ・全体で考えを高め合う 	<ul style="list-style-type: none"> ・自分や友だちの疑問から明確な学習問題を持ち，実験方法や観察データを共有する中で明らかにしようとする (ア) ・問題が解決するまで，検証方法や考察方法を話し合いながら，協力してくりかえし追求しようとする (ア・イ) ・小グループで意見を話し合いながら解決方法を決める (イ・ウ) ・自分の考えだけでなく，友達の考え方もまずは受け止め，相違点や類似点に気付く (ウ) ・観測データを共有し，仮説を立て，検証する ・人間関係や既習知識ではなく，事実を重視した論議をし，規則性を導き出す (エ)

「公共性育成プラン」 (音楽)

- 目標 (1) からだまるごとで音楽を受けとめ、自らの思いを表現していこうとする姿勢を育む
 (2) 多様な音楽経験を積み重ねる中で、他者と交流・触発し合い、想像力や創造力を磨く
 (3) 音楽について思考し、価値判断の主体になるとともに、他者との異質性を認識し、認めあいながら文化的実践を生成していく

		子どもの表現行動の例		【2010年度の実践から】
		自らのからだを通した感受・知覚	他者（自分も含む）との協働	判断・省察
接 続 期		一緒に歌う、遊ぶ、まねる ・よくみる、ながめる	・知らない曲に興味を持つ	・この曲いいな ・おもしろそう ・同じ曲好き ・やっぱりあの曲か ・〇〇さんらしいな
	からだで楽しむ			
低 学 年		・ことばのリズムや声にした音色を楽しむ ・声を合わせた心地よさにひたる ・拍を感じて合わせる ・あそびにこだわる ・息があう 声がひとつにまとまる ・聞こえた音楽を再現する 協力してわらべ歌であそぶ ことばあそび、替え歌を楽しむ (リズム・音程・曲の雰囲気)	・あそびを続けて楽しむ ・アイデアをいかして新しいあそびをつくる ・友だちの声に耳を傾ける 「背中で声を感じよう」 ・音の流れを感じ、つなぐ 「トーンチャイムのリレー」 折り合いをつける 互いの声を聴きあう ・「オスティナート」や「簡単なカノン」を合 わせて楽しむ ・友だちの発表を受けとめる	・うまくいかないとき、 どうしたらいいか ・ルールをつくろう ・うまくいって ・このような合わせ方は ほかにもできそう ・あのやり方はいいな ・おりあいをつける
	お互いの表現を聴きあい、交流しあう 気持ちを合わせて創る			
中 学 年		即興表現を楽しむ ・それぞれの楽器の響きをからだに感じる 「マウスピース」「音楽づくり」 のびのびと歌う・演奏する ・曲想にあった歌い方や演奏法を工夫する 自分の役割を意識し、責任を果たす 「ミュージカルをつくろう」 よく聴きあう お互いの考えを受けとめ、よりよい表現を探る ・お互いの思いを尊重しながら作品を演奏する ・他者の表現を受けとめ、自分なりの考えを持つ	楽器にふれる 「リコーダーで遊ぼう」 アンサンブルを楽しむ① 「江戸囃子」和楽器に触れ、唱歌（しょう が）を合わせる 「レッツ ビギン」ラテン楽器を加える ・お互いの声をよく聴きあって歌う 役割を分担し、協力して作品をつくる 互いの奏でる音に敏感になり、その特徴を 言語化する 「音の神経衰弱」	・自分と他者のアイデア や考え方の違いに気づく ・協力する、互いに委ね あう ・見通しを持つ ・方法を工夫する ・自分ならこうする ・もっとこうしたら ・イメージを言語化する
	自らの学習に責任を持ち、よりよい表現をめざす			
高 学 年		学習を自ら計画し、責任をもって進める 意見交流を行い、よりよい表現をめざす 他者との意見の違いを尊重しながら工夫を重ね、表現を高めていく アンサンブルを楽しむ② ・楽器の違いやそれぞれの響きの特徴に気づく ・響きの豊かさを感じる ・声部の違いや曲の構成を受けとめ、自分の 思いを歌や演奏にいかそうとする 見通しを持って学習を進める (必要なものの準備・計画性)	・様々な種類のリコーダーに触れ、それぞ れの響きをいかした合奏を楽しむ ・お互いの演奏を聴きあい、それぞれのよさ・ 工夫を受けとめる ・共感的に聴きあうことを大切にしてい く中で、新たな表現欲求を持つ アンサンブルを楽しむ③ 「雅楽」と「アジアの音楽」(竹を中心とし たもの) 共通性とそれぞれの音楽の違いを感じあ い、意見交流する	・表現や手段、演奏に対 し積極的に交流する (批判も含む) ・自分にとって心地良い 音楽、不快な音楽を自 覚する ・じっくりこないもの に対して自分に問う ・様々な音楽の背景を 知ること、新たな音楽 に参加する ・自らの音楽経験を振り 返る中で、自分にと つての音楽は何かを考 える

育てたい「公共性リテラシー」

ア：必要な道具をもちいて、「私」を表現しようとする態度

イ：他者の表現を味わう感性

ウ：他者とともに音楽表現を生み出していく想像力・創造力

エ：自らの学習を設計し、自律的に活動していく構成力・判断力

オ：音楽経験を通して、さらに自らの思考を深め、高めようとする探求力

公共性を育てることを意識した場の設定

	常時活動	行事	子どもの姿
接続期			
低学年	わらべうたあそび 自分たちのリクエストによる歌唱	(月に一回程度)	<ul style="list-style-type: none"> 仲間とともにからだまるごとで音楽を楽しむ (ウ) ルールを覚え、仲間と気持ちよく遊ぶ (エ) あそびから即興や創造性をひき出し、ことばあそびや音づくりを楽しむ (ア・イ・ウ)
		好きな子が集まって開く	<ul style="list-style-type: none"> 自分の好きな曲を選び、仲間に表明する (ア) 仲間とともに歌う心地よさにひたる (ウ) 多くの曲から自分の快・不快を感じ取る (オ) 選曲や歌う表情からその子らしさを感じる (イ)
中学年	ミュージックプランに基づく学習	全	<ul style="list-style-type: none"> 多様な音楽から自分のお気に入りを選ぶ (オ) 仲間とともに、多様な表現を合わせることを楽しむ (ア・ウ) やりたいことにこだわり、試行錯誤しながらよりよい表現を工夫する (エ・オ) 見通しを持って学習を進める (エ) 友達の演奏を自分なりに受けとめる (イ) 感じたことを言葉にして伝える (オ) 活動を振り返り、次の行動にいかそうとする (エ)
		校	<ul style="list-style-type: none"> コンサートに出演し自分の表現を伝えようとする (ア・ウ) 自分と異なる表現を楽しむ (イ) おもしろいと感じたものを自分の表現にいかそうとする (オ) 異年齢の表現を、共感的に聴きあう (イ)
高学年		音	<ul style="list-style-type: none"> 日常とは異なる空間で、仲間とともに、聴衆に表現を伝えようとする (ア・ウ) 発表に向け、仲間と協力して作品をつくりだそうとする (エ) 共感的観衆の中で、演奏する喜びを互いに味わう (イ・ウ) 演奏を受け止め、自分の感じたことをまとめる (イ・オ) 異なる学年の表現を聴く中で、自分の好む音楽を意識化する (イ・オ)
		楽	
		会	

「公共性育成プラン」 (アート)

目標 (1) からだ全体の感覚を働かせることによって、自信をもって活動に取り組む
 (2) 「私」と異なる表現や見方に気づき、その違いを受けとめたり、認め合ったりする
 (3) 「私」らしい意思決定を繰り返し、つくり出していくたくましさを身につける
 ※ 「私」らしさ：身体感覚を働かせて、形や色に基づいた自分なりのイメージをつかみ、新たな価値の形成を図ろうとする意思

	つくり出す喜び		みる楽しみ
	からだで感じて	生活を豊かに	
接続期		「ぼくのわたしのすきなもの」 (好きなものを描くー見あう)	「アートでおめでとう」 (新人生歓迎会装飾)
低学年	「〇〇 (材料・友だち・場所) となかよし」 (造形遊び・からだ遊びの広がり)		
		「アートでお祝い」 (卒業生を送る会装飾・2年生)	「見て、聞いてタイム」 (互いに見あうー聞きあう)
中学年		「アートで応援」 (運動会装飾)	
	「ハートビート・ドローイング」 (自他の心音を聴いて描く)		「かたちビンゴ」 (自他のイメージを見比べる)
	「卵の世界」 (素材に向き合う)	「おもてなしアート」 (他者をもてなす場づくり)	「まねしてポーズ」 (アート作品の人物に扮する)
	「マイ・ものさし」 (自分の尺度づくり)		「見せて、聞かせてタイム」 (互いに見あうー聞きあう)
高学年	「ブラインドウオーク」 (ことばによらない関わりあい)		「江戸図屏風めぐり」 (分身を屏風に入れて写真撮影)
		「味わいアート」 (食に関する形・色・味わい)	
	「お茶の〈間〉アート」 (公共の場における表現活動)		「なりきりアート」 (歴史上の人物に扮する・役割を担う)
	「衣心地はどうか」 (共有した素材から私らしさへ)		「アートレポート」 (身近なアートの取材・報告)
			「感じて、伝えるタイム」 (互いに見あうー伝えあう)
		「マイ・アルバム」 (卒業アルバムにおける表現)	

育てたい「公共性リテラシー」

ア：素直に「私」らしく表現しようとする意欲

イ：多様な表現や他者との違いを前向きに受けとめ、楽しんで活動につなげようとする志向

ウ：他者との関係の中で、ねばり強く「私」らしさを発揮しようとする創造性

エ：想像力を働かせて、他者の思いを感じとり、互いのイメージを伝え合おうとする姿勢

子 ども の 姿	
接続期	<ul style="list-style-type: none"> ・人それぞれに好きなものがあり、自分と同じだったり、違っていたりすることにふれる(ア) (イ) ・アート活動の装飾で歓迎される喜びを感じる (ア)
低学年	<ul style="list-style-type: none"> ・からだ全体で様々な素材に関わる原初的な活動を通して、自分なりの感じ方を意識する (ア) ・友だちと共に表現活動をするを通して、身の回りの形や色に親しむ (イ) ・相手への思いを、形や色に置き換えて伝えるアート活動を経験する (エ) ・表現したものを見せ合い、伝えたいことを紹介し合うことを楽しむ (イ)
中学年	<ul style="list-style-type: none"> ・身の回りのものや自然との対話を通じた表現活動を経験する (ア) ・身近な音やリズムを感じとり、目に見えないものを自分なりにイメージしたり、表現したりする (ウ) ・相手のイメージを想像するを通して、人それぞれに違いがあることに気づく (イ) (エ) ・人を招く場のしつらいを通して、ここちよいもてなしの空間を表現したり、提供したりする (エ) ・作品などにおける人物の姿勢・構え・表情などをまねするを通して、からだ全体で他者の立場を経験する (イ) ・表現したものを見せ合い、伝えたいことを紹介し合ったり、聞き合ったりすることを楽しむ(イ)
高学年	<ul style="list-style-type: none"> ・一つの感覚を閉ざした状態で、他の感覚を研ぎ澄ませ、表現することを体験する (ア) ・生活の中にある文化にふれ、味覚などの諸感覚を働かせて、自らの生活を見直すようになる (イ) ・共同の活動において、自他の存在を感じあいながら、「私」らしさを追求しようとする (ウ) ・協働につながる役割を担うを通して、共に表現する楽しさと充実感を味わう (イ) (ウ) ・学校内外の公共の場における表現活動や運営を通して、他者の思いと「私」の思いの違いに、折り合いをつけて表そうとする (ウ) (エ) ・作品などにおける登場人物の気持ちなどを想像するなどして、イメージを捉える体験をする(エ) ・作品などから感じたことを、相手の思いを受けとめながら批評しあったり、自分の活動に生かそうとしたりする (イ)

「公共性育成プラン」 (生活文化)

目標 (1) 主体的に生活をつくろうとする態度を養う
 (2) 生活における知識・実践力の基礎を身につける
 (3) 生活の中から課題を見つけ、周囲の人々や社会との関わりを考えながら、解決をはかろうとする意欲を養う

	食	衣	住	家族・消費生活
低 中 学 年	<ul style="list-style-type: none"> 野菜等の栽培 給食 	<ul style="list-style-type: none"> 場面に応じた衣服の選択 	<ul style="list-style-type: none"> 教室環境の整備・清掃 	<ul style="list-style-type: none"> お手伝い 成長の記録
高 学 年	<ul style="list-style-type: none"> 自分の食生活を見つめて課題を見つけ自分でできる解決の方法を考える 自分の食生活を支えている人・もの・社会とのつながりを実感し、自分のできることを考え、技能を身につけ、実践する 調理実習を通し食生活に関する知識や実践力を高める <p>例：「バランスのよい食事をしよう」</p> <p>例：「シリーズ身近な名人に学ぼう」</p> <p>例：「調理に挑戦」</p>	<ul style="list-style-type: none"> 衣服の意味や、日常着の手入れについて考えたり実践したりする 手縫いやミシン縫いの基礎的技能を獲得し、作品の完成を目指して粘り強く取り組む <p>例：「衣服の手入れをしよう」</p> <p>例：「針と糸で縫ってみよう」「ミシンを使ってみよう」</p>	<ul style="list-style-type: none"> 身近な環境を気持ちのよいものにするために自分のできることを考え、実践する 住まいを快適にするための工夫について調べ、発表し、話し合う <p>例：「身の回りをすっきり気持ちよく整えよう」</p> <p>例：「快適住まいの工夫」</p>	<ul style="list-style-type: none"> 家庭の仕事を見直し、学習の見直しとめあてを持つ 生活時間の振り返りから自分の生活を見つめて課題を見出し、解決の方法を考え、実践する 物の作り手の立場に立って考え、消費生活を見直す <p>例：「生活の自立度チェックをしよう」</p> <p>例：「自分の生活時間を見直そう」</p> <p>例：「小学生のハートをつかむ消しゴムの販売作戦を考えよう」</p>

育てたい「公共性リテラシー」

ア：自分の生活を主体的につくろうとする意欲

イ：友だちと関わりあいながら作業をすすめていこうとする力

ウ：友だちや身近な名人の考え方と出会い、自分の生活を見つめなおすとともにさらによくしようとする態度

子どもの姿

高 学 年	ア	<ul style="list-style-type: none"> ・家庭の仕事を見直し、自分でできることについて友だちとの違いを楽しみながら話し合い、2年間の学習の見通しと自分なりのめあてを持つ ・自分の生活を見つめて問いを立て、友だちの考えをヒントにしなが、自分でできる解決の方法を考える ・衣服と生活場面との関係について友だちと意見交換をし、衣服の持つ意味について自分なりの考えを持つ ・身近な環境を気持ちのよいものにするための工夫を各家庭から持ち寄り、友だちとの意見交換を通して、自分のできることを考え、実践する
	イ	<ul style="list-style-type: none"> ・友だちとともに調理実習や製作実習を行うことを通して、互いに助け合ったり教え合ったりしながら、作品を作り上げる楽しさを共有する ・生活経験の異なる友だちとともに調理実習を行うことを通して、食生活に関する経験を豊かにし、実践する意欲を高める ・計画から片づけまで協力し、グループの中でできることを考えてやり通す
	ウ	<ul style="list-style-type: none"> ・身近な名人との交流や友だちとの話し合い等を通して、自分の生活をいろいろな角度から見つめなおし、生活をよりよくするためにはどうしたらよいかを考え、実践しようとする ・ものの作り手の立場に立って考えることにより、自分の生活を支えている人・もの・社会との関係について考えるとともに、自分のものの選び方を見直す

「公共性育成プラン」 (からだ)

- 目標 (1) 自分のからだを通して、創造的に運動を楽しもうとする
 (2) 自分から健康なからだを培おうとする

		感覚を大切に活動例	
		からだで感じる	からだで関わりあう
接 続 期	全力で走る	思い切りからだを動かす楽しさや心地よさを感じる	
	身を委ねる		自分の言いたいことを言う
低 学 年	<p>もので遊ぼう</p> <p>友だち、用具との関わりで動きのおもしろさを味わう</p>		<p>ゲーム</p> <p>アイデアを出す</p>
	<p>わくわく水遊び</p> <p>水の感触を楽しむ、浮く、沈む感じを楽しむ</p>		<p>鬼遊び</p> <p>目を合わせる、間をとる</p>
		<p>体と心</p> <p>いろいろな気持ちに気づく</p> <p>赤ちゃん人形を背負って、自分の成長を感じる</p>	<p>みんなでおどろろ</p> <p>全身で表現したり、友だちと息を合わせて踊ったりすることを楽しむ</p>
		<p>走ろう とぼう</p> <p>からだで遊ぼう</p>	<p>全力で走る、ムキになって競争する</p> <p>いろいろな動き方を見つける</p> <p>すもうで力の加減を味わう</p>
中 学 年	<p>マット、跳び箱、鉄棒などを使った運動遊び</p> <p>器械・器具を使って跳んだり、回ったりなどの様々な感覚を楽しむ</p>		<p>ボールゲーム</p> <p>友だちとの間をとったり、くずしたりする</p>
	<p>水を感じよう</p> <p>浮く、沈む、勢いをつけるなどの感じを楽しむ</p> <p>効率的に進む心地よさを味わう</p>		<p>表現運動</p> <p>見つけたものを次々に動きにする 友だちと共に動くことを楽しむ</p>
		<p>走ろう、とぼう</p> <p>からだの仕組み 健康な生活</p> <p>友だち、用具との関わりで動きのおもしろい世界をつくる、広げる</p>	<p>力くらべ</p> <p>力の人れ方、抜き方、力加減を知る</p> <p>全力で走ったり、跳んだりすることを楽しむ</p> <p>友だちの心音を聴きあう</p> <p>からだで遊ぼう</p>
高 学 年	<p>マット、跳び箱、鉄棒などを使った運動</p> <p>器械・器具を使って動く感じを楽しみ、動き方や場を工夫する</p>		<p>ボール運動</p> <p>一人一人に合った役割を考える</p> <p>みんなで楽しめるゲームをつくる</p>
	<p>水を感じて、進もう</p> <p>浮く、沈む、勢いを付ける、回るなどの感じを楽しむ</p> <p>効率的に進む感じにこだわりをもつ</p>		<p>表現・ダンス</p> <p>友だちとリズムに乗って踊ったり、表現したりすることを楽しむ</p>
		<p>陸上</p> <p>からだの違いと心の成長 健康な生活と環境</p> <p>人のからだの仕組みや成り立ちを知り、生活に生かす</p> <p>からだで遊ぼう</p> <p>友だち、用具との関わりで動きのおもしろさを広げる、深める</p> <p>おもしろさを味わいながら、動き方や場を工夫する</p>	<p>全力で走ったり跳んだりするおもしろさを味わいながら、動き方や場を工夫する</p>

育てたい「公共性リテラシー」

- ア：からだの感覚や運動の本質的な楽しさを感じる力
- イ：からだを通して、仲間と関わりあう力
- ウ：感覚や考えをからだを通して伝え、仲間を受けとめる力
- エ：仲間とともに工夫し、つくり上げる力
- オ：からだを通じた経験や知識を生活に生かそうとする力

子 ど も の 姿	
接 続 期	<ul style="list-style-type: none"> ・からだを動かすことを楽しむ ・友だちと思い切りからだに関わる
低 学 年	<ul style="list-style-type: none"> ア・いろいろな遊びを楽しむ イ・全身で表現したり、友だちと息を合わせたりすることを楽しむ <ul style="list-style-type: none"> ・友だちと関わりながら運動を楽しむ ウ・気持ちよく友だちと関わる <ul style="list-style-type: none"> ・その運動をもっとおもしろくするための自分の考えを言う ・友だちのまねをする エ・友だちと競争したり、ゲームをしたりすることを楽しむ オ・自分のからだについて考える
中 学 年	<ul style="list-style-type: none"> ア・新しい遊びに挑戦し、動きや感覚を楽しむ <ul style="list-style-type: none"> ・自分なりの動きを見つけようとする イ・友だちと関わりながら運動に意欲的に取り組む ウ・いろいろな動きを見つけ、友だちと伝えあう <ul style="list-style-type: none"> ・友だちの動きの良いところを見つけたり、まねしたりして楽しむ エ・友だちと競争したり、ルールを工夫したりしてゲームをつくらうとする オ・自分のからだについて知識を持とうとする
高 学 年	<ul style="list-style-type: none"> ア・いろいろな運動に挑戦し、動きや感覚を楽しむ <ul style="list-style-type: none"> ・自分の好きな動き（運動）を見つける イ・友だちと関わり、グループとしての一体感をつくったり、感じたりする ウ・いろいろな動きを見つけ、自分なりの動きや感覚を伝えあう <ul style="list-style-type: none"> ・友だちと動きを見合い、動きをつくっていくことを通して、より良い動きに迫ろうとする エ・友だちと競争したり、ルールを工夫したりしてゲームをつくる <ul style="list-style-type: none"> ・友だちの動きを受け入れ、チームとしての役割を考える オ・自分や友だちのからだについての理解を深め、生活に生かそうとする